

事務事業評価シート 平成 27 年度事後評価・決算

平成 29 年 2 月 22 日時点

事務事業名	22800 水田農業構造改革推進事業	予算科目	会計 一般	款 6	項 1	目 3	所管課 農水産課	担当班 振興班	
基本施策	1 農水産業の振興	根拠法令	旭市補助金等交付規則					事業種別	<input checked="" type="checkbox"/> 主な事業
施策の展開	2 安定した農業経営の推進	戦略事業	13 水田農業構造改革推進事業						<input type="checkbox"/> 国土強靱化地域計画
施策の展開		戦略事業							<input type="checkbox"/> 新市建設計画
事業種別								<input type="checkbox"/> 定住自立圏構想	
								<input checked="" type="checkbox"/> 主要事業	

(1) 事務事業の概要

① 事務事業の期間	② 事務事業の内容 ※何をどのようにする事務事業なのか、市民が理解できるように記述する、行政用語は使わない	
<input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返 <input type="checkbox"/> 平成 年度～ <input checked="" type="checkbox"/> 開始年度不詳 <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 平成 年度～ 平成 年度まで	国の施策として米の需給調整が進められている。米の消費量が減少する中、需要に即した米作りを進めるため、水田での飼料用米、ホールクroppサイレージなどの飼料作物や米粉用米、景観形成作物などを作付けた農家に対し、助成する。	
③ 事務事業開始の経緯・事務事業の現状	④ 事務事業に関する課題・環境の変化	⑤ 事務事業に対する住民からの意見等
国が進める需給調整を推進するために、転作作物に対し助成する。また、販売価格が生産費を下回る赤字状態が続いている稲作経営の維持・安定を図るため。	平成22年度から国の需給調整の推進が、ペナルティーを課す施策からメリット措置としての誘導に変わった。(農業者戸別所得補償制度の導入) 飼料用米・米粉用米の取り組みに対する助成が新たに加わり、所得補償制度加入者も増加した。	飼料用米受入側の畜産農家からは毎年のように国の制度が変わり、受け入れの設備投資に踏み切れないので、法制化をして継続的な取り組みとなるようにしてほしいとの要望がある。耕種農家からは制度が難しく解りづらいという意見が出ている。

(2) コスト・特定財源の状況

① 事業費の詳細 (27年度の決算) 単位:千円	② 特定財源の内訳 (27年度の決算) 単位:千円	事業費	24年度 (決算)	25年度 (決算)	26年度 (決算)	27年度 (決算)	28年度 (予算)
1.負担金補助及び交付金: 60,913 転作作物推進事業	1.国庫支出金: 0	1. 負担金補助及び交付金	32,230	33,637	43,646	60,913	77,171
2.都道府県支出金: 6,709 水田自給力構造改革推進事業	2.都道府県支出金: 0	事業費計 (A)	32,230	33,637	43,646	60,913	77,171
3.地方債: 0	3.地方債: 0	1. 国庫支出金		2,765	2,797	3,621	6,709
4.その他: 0	4.その他: 0	2. 都道府県支出金					8,515
		3. 地方債					
		4. その他					
		5. 一般財源	29,465	30,840	40,025	54,204	68,656

前年度増減理由	転作面積の増加
---------	---------

従事職員数 常時 3人 最大 3人 × 200日 = 延べ 600人

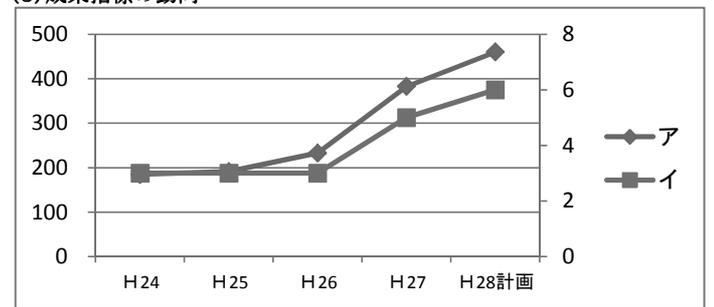
(3) 事務事業の手段・目的と対応する指標

手段	① 主な活動	⇒	③ 活動指標名	単位	24年度 (実績)	25年度 (実績)	26年度 (実績)	27年度 (実績)	28年度 (計画)
	27年度実績 (27年度に行った主な活動)		ア 補助金対象者数	件	176	175	139	185	200
目的	② 対象・意図 (対象がどのような状態になるのか)	⇒	④ 成果指標名	単位	24年度 (実績)	25年度 (実績)	26年度 (実績)	27年度 (実績)	28年度 (計画)
	対象意図		ア 転作作物作付面積 (WCS・飼料用米)	ha	184.8	191.3	232.9	382.8	460.0
	対象意図		イ 団地化を実施している生産者及び生産団体	件	3	3	3	5	6

(4) 事務事業優先度評価の結果

① 成果優先度評価結果			② コスト削減優先度評価結果		
施策貢献度	成果向上余地		コスト比率		
	大きい	ある程度ある	下位 1/3	中位 1/3	上位 1/3
	普通	ほとんどない	①	②	③
小さい			④⑤	⑥	⑦⑧
			⑨		

(5) 成果指標の動向



(6) 事務事業に関する評価

① 進捗状況	<input type="checkbox"/> 完了	<input checked="" type="checkbox"/> 順調	<input type="checkbox"/> 概ね順調	<input type="checkbox"/> 停滞	<input type="checkbox"/> 実施困難	
② 成果の状況	成果指標ア	成果指標イ	数値増=成果向上	<input checked="" type="checkbox"/> 向上	<input type="checkbox"/> 横ばい	<input type="checkbox"/> 低下
③ 今年度取組事項	時期	内容	今後の方向性	<input checked="" type="checkbox"/> 拡大	<input type="checkbox"/> 現状維持	<input type="checkbox"/> 見直し
【コメント】 (停滞・実施困難の場合、その理由)				<input type="checkbox"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 廃止・休止	<input type="checkbox"/> その他 ()
【コメント】 (低下の場合、その理由)	年度内	例年どおり実施。				

水田における米の過剰作付ことも米価の下落を解消するため、飼料用米等の転作作物の作付拡大を図っていかねばならない。そのためにも、担い手を中心に、転作の取組者を支援していく。